

操る楽しさ

「曲がる」ことも「走る」ことも、ドライバーがステアリングを切ったり、ペダルを踏んだりすることによる結果です。
ならば、これらの「運転操作」を気持ちよく楽しめるようにすることで、「曲がる」「走る」楽しさをさらに高めることができると、私たちは考えました。

シフトノブを意味も無く動かしたくなるほどの動きの気持ちよさがあるか？
ステアリングの握り心地は？ペダルの配置は？シートは、コーナリングでしっかりと体を受け止めてくれるか——？

走る喜びをあらゆる人に届けるスポーツカーとして、こうした細かな点に至るまで徹底してこだわり、誰もが「運転操作が楽しい」と思える操作感覚を追求しました。



国道134号線とS800

逗子から鎌倉の材木座へ抜ける、さながら「ミニモナコ」のような海沿いの道。そこを、愛車のS800で駆け抜けるときの、言葉にできない快感をみんなに届けたい一心で開発を進めてきました。——なんて言ったら、ちょっと格好付けすぎですかね？

パッケージング担当
樋口彰男



「フィーリング」の世界の奥底まで

ハマったことにはとことんのめり込んでいく性格がいかんなく発揮され、「最高のチェンジフィーリング」を求めてチームのスタッフたちと延々議論し、メカニズムをつくりこんでいく日々でした。「フィーリング」の世界は奥深いもの。これからも好奇心の赴くまま、この世界の奥底まで探ってみたいと思っています。

トランスミッション担当
笹本晃司



「ムダ」を楽しんで！

あらゆるものが便利で簡単になった今、マニュアル車なんて「ムダなもの」の最たるものかもしれません。でも、クルマを走らせるためにこれ以上無いほどシンプルな機構であるがゆえの、クルマとの濃密な一体感は、何にも代えがたいものです。このクルマのために新開発した6MTで「ムダ」を楽しみましょう！

トランスミッション担当
岩崎正明



理由のあるかたち

最近、野菜を作り始めました。おいしいだけでなく、「野菜の色や形」には必ず「理由」があるということを知ってますます惹きつけられています。S660のインテリアと何の関係があるのかって？それは、「かたちに理由がある」ということ。きっと数百メートルも走れば、わかってもらえますよ！

インテリアデザイン担当
稲森裕起



大冒険のインテリア

小さな「箱」に多くのこだわりを詰めたインテリアで、何度も「無理だ」と道を見失いかけてきましたが、いいと思ったことはとにかくやってみる。私が休暇時に挑む「過酷旅チャレンジ」とS660の開発は「まずやってみる」ことで道が見えてくる点がとても似ていました。メンバーには感謝！

インテリア担当
森下勇毅